

歩道併設橋梁の実態調査について

1. 目的

全国の歩道併設橋梁における防護柵の設置状況等を把握し、橋梁上の車両用防護柵の設置のあり方等の検討の基礎資料とする。

2. 対象

全国の道路の橋梁のうち、歩道併設（歩車分離橋等を除く）の橋梁のうち、車両用防護柵が設置されていない橋梁（タイプ の延長一定以上のもの）

直轄管理橋梁（一般国道指定区間）

地方公共団体管理橋梁（一般国道指定区間外、都道府県道、市町村道）

・・・・・・調査票等を参考送付し、実態調査の協力が得られる都道府県、市町村において実施

3. 調査項目

（1）橋梁構造等

架設年度、橋梁延長、設計速度、規制速度、歩道種類、縁石高、歩道幅員、交通量、平面・縦断線形等

（2）車両用防護柵設置の必要性

- a) 転落車両による第3者の2次被害が発生するおそれがあるか
- b) 線形が視認されにくい曲線部など、車両の路外逸脱が生じやすいか
- c) 地域の気象特性等によって路面凍結が生じやすくスリップ事故が多発しているか